

第2回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）
第2回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和6年8月23日（金）13:30～16:00

会場 橋南公民館 第1・2会議室

出席者（委員）：原委員、秋山委員、松村委員、池田委員、小林委員、岡田委員、西村委員、村松委員、
湯本委員、藤本委員、今牧委員、近藤委員、菱田委員

（アドバイザー）：高松委員、宮澤委員

（事務局）：山崎こども未来健康部長、筒井こども課長、小澤保育家庭課長、高山こども課長補佐兼
子育て支援係長、片桐こども課長補佐兼こども相談係長、北沢こども課発達支援係長、
牛山保育家庭課長補佐兼施設管理係長、齊藤保育家庭課保育係長、矢澤保健課長補佐兼
保健指導係長、福澤保健課長補佐母子保健係長、木下学校教育課児童クラブ係長

（司会）：高山こども課長補佐兼子育て支援係長

1 開 会

2 原会長あいさつ

私が通勤する途中小学校の前を通るのですが、こどもが歩いていないことに夏休みを感じていましたが、お盆が終わりましてこどもたちが歩き出し、学校が始まったことを感じます。長期休みでこどもを家で見る大変さを感じており、学校が始まりほっとしているのは親御さんたちではないかと思います。

本日の協議事項は、新しいプランの中にも盛りこんでいかないといけないという気持ちでいます。最近の報道では自民党総裁選のことや、政策の議論が耳に入ってくると思いますが、いろんな考え方や分野がある中で、子育て支援はこれからの日本の社会を形成する上で非常に大切なことですので、ご説明を受けて活発に議論していただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

3 こども未来健康部長あいさつ

りんご庁舎の2階には高校生の姿がまだ見えたりもしますが、夏休みが終わり、だんだん日常に戻ってきたように感じております。

社会福祉審議会の本部会議で、前回こちらで協議をしていただいた第二期子育て応援プランの次期計画について諮問させていただきました。その内容についてご協議をいただきまして、一体で計画をしていくことが了承されましたので、本日は計画に向けて進めてまいりたいと思います。この後担当から説明がありますが、皆さんのご意見を頂戴して計画に反映させていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

また事務所内保育所の申請も出てきておりますので、それも併せてご協議いただき、お認めをいただければと思います。

4 社会福祉審議会本部会報告

（筒井こども課長より報告）

5 協議事項

(1) (仮称) こどもまんなかプランの策定について

①「子ども・子育て支援ニーズ調査」の結果報告について

(高山こども課長補佐兼子育て支援係長より資料 No. 1・No. 2 の説明)

意見質問事項

A 委員	感じたことは、とても様々な支援をしていますが、縦割りになってしまっているということです。公民館でひとり親家庭の学習支援をしており、塾に連れていけない近所のお父さんやお母さんのこどもが来てくれています。ただ、山間地のこどもたちはそこまで送ってもらう手段がなく、支援があるけどそれを上手く使えない家庭が多いと思います。「地域毎に地域の資源を理解して情報発信をする」とありましたが、飯田市の真ん中に大きな施設を作ることでも大事かもしれませんが、地域毎に小さくても良いので継続できる支援の場はもっとあるといいと思います。 つどいの広場などいろいろやってくさっていますが、何かもう少しできないのかと考えますと、どうしても行政が縦割りになっていて、横のつながりが難しいと感じます。「学童保育をやってほしい」と言っても、「学校の施設は使えません」と言われてしまい、場所を探して公民館を使ったり、苦勞している地域があったりしていて、いくら各課が一生懸命プランを立ててこのようにやっても、それが上手く繋がっていくかどうかというところが大事だと思っています。
B 委員	どこかに所属している保護者については、相談ができるタイミングがあるなどと思っていますが、送迎がなくなる学童期のお子さんを持つ保護者や、こどもの居場所づくりの課題が大きいのかと思いました。学童クラブなど就学後の対応の必要性を強く感じたことと、希望するが利用できないというニーズに対して、どこかに所属できるような所属性を高くしていこうとしているのか、展開していこうとしているのか、そのニーズについてどのように考えて事業を進めていくのか聞いていきたいです。 保育園を選ぶ基準というところでは、意識の改革が必要だと感じています。アンケートにも出ていたが、必然的にお母さんの就労時間に合わせてお迎えができることが利用しやすいと考えられるならば、延長保育について今のままの進め方でいいのかと思いました。休日についてはお盆の時期に保育園もお休みするなど、昔から変わっていないことに驚きます。お盆の時期に仕事をしている方もいる中で、今までの流れのままでいいのか、園や市役所の意識の改革が必要なのではないかと思っています。病後児の保育の充実というところでも必要だと感じます。
C 委員	先ほど説明の中で、長期休業中の放課後児童クラブの需要がとても増えているという話がありましたが、公民館を利用してこどもの学習を見るボランティアを募集していました。実際に来たこどもは 20 人満たず、利用が少なかったとお聞きしました。参加するための条件がいろいろある中で、なかなか行かせることができない保護者もいたのではないかと思います。今回は公民館の方で主体的に取り

	組みをされていたと思いますが、夏休みの課題として毎年あることですので、公民館主導というよりは飯田市全体の行政の中で考えていただけるといいかと思いました。こういった話の中ではどうしても人が必要になってくるため、人的な予算をきちんと措置していただけることが大事だと思っています。意欲のある人としてボランティアを活用することは大切な資源ですが、ボランティアに甘えすぎず、行政として必要なところには必要な人が配置されるようにしていただきたいです。
D 委員	法人の役員でありまして介護施設をメインでやっていますが、今空いている施設が伊賀良にあります。現在伊賀良地区も学童でこどもを見る方がいない中ですが、何とか地域の役に立てないかという意味で、私達の空いている施設を使って学童のようなことができないか検討しています。やはり採算がとれるかというところと少し難しそうだということや、地域に先生をやられていた方がいらっしゃるの、そういう方に声掛けしていますが、こどもを見るのはいいが親との付き合いで疲れてしまったというような意見をお聞きしました。当然ルールやいろいろな決まりがあると思います。人の管理やトラブルなど、親やお子さんのケアというところで、行政に入っていいただければ私達の施設のようにやりたいと思っているところはあるかと思っています。今後参加しやすくなっていくと良いと思います。
E 委員	保育の入所について、希望しているが入ることができないと言うお母さんたちがおり、夏以降の途中入所ができず、夏以降に生まれた子どもさんが損をするという言われ方になってしまっているように感じます。1年育休があるが、育休を早めて入園を考えなければならず、「どういった順番で物事を考えていけばいいのだろう」という声が最近いくつか聞かれました。フルタイムで働くのか、こどもという時間を多くとるために短時間にするのか、働くお母さんが両方を天秤にかけたときに、入園審査でフルタイムだと有利になり短時間だと後回しになりがちであり、「フルタイムにしとけばよかった」と言った方もいました。働き方と入園の受入れというところが実際に難しいと思うが、入園先も勤務先のエリアで選ぶ人が増えています。しかし審査のときに地元だと入りやすくなっており、選べるのに選べないというところがどうなのかと思いました。小学校に上がると、今度は小学校の帰りが早いため、フルタイムなら児童クラブに入れるが、こどもとの時間を大事にしたいために短時間勤務にする方もいます。そうすることで児童クラブには入れず、「保育園の入園も難しかったがまた難しいと思ってしまう」といった声も最近聞こえてきています。 育休をとれる仕組みはあるが、職場から「早く帰ってきて」と言われ、求められていることは嬉しいが、育休を短くしてこどもにどのようにしたらいいのかが悩むという方もいました。 病児病後児保育について、もちろんあった方がいいとは思いますが、そのような時は職場の理解を求め、休める環境づくりに力を注いでほしいと思います。 お父さんの育休については、育休を取ると有休を削られてしまい、それ以外で病気の時やお母さんが手伝ってほしい時に、残りの有休が少ないから取れないと言わ

	れたり、給料を減らされていたりするという事も聞きました。もう少し働く環境の整備に力を入れていかないと、子育て支援の部分で弱いように思います。
F 委員	育休を取ることで有休を削られていることはおかしいと感じます。その会社の方も育休制度をよく理解されていないために、誤った手際をしているのかもしれませんが。社内全体としても、子育て支援や制度のことを理解していない会社は多いように思うので、労働基準監督署などが企業に指導することで、大きく違ってくるのではないのでしょうか。子育て支援や制度への理解を変えていく必要があると思います。
G 委員	育児休暇は年休を減られることはないと思います。保育園の入所のことについては、4月入所でないと入所が難しいというところがあり、こどもの数は減っているが未満児保育の受入れを広げてほしいという要望があると思うので、それに応えられるようになってほしいと感じます。 学童保育で受け入れを広めようと思うならば、建物の条件はあるのでしょうか。児童クラブということで防災センターを改装して増やしていただいてすごく助かったということもあり、保護者として児童クラブが1番お願いしやすいところだと思います。
事務局	多方面から、ニーズ調査に対してのご発言を頂戴しましてありがとうございます。プラン策定の中に生かしていきたいと思います。 保育園の夏休みの話ですが、保育園の夏休みはありません。しっかり開所していただいています。ただお盆の時期に自由登園ということで、お父さんお母さんに夏休みがあるため休ませることが主流になる時期がありますが、保育を希望する場合は預かる形でありますので、学校の夏休みとは大きく違うということはお伝えします。 学童保育と保育に関しては同様に、1番は人材という問題です。特に学童保育にあっては数年で夏休みのニーズが高まっています。例えば夏休みのニーズの3週間だけ学童保育をしていただくというスタッフの雇い方が、募集時に人材がなかなか見つからないことも現状です。通年で勤めることができるのであれば、雇ってほしいという方がいますが、夏休みの間だけという働き方にはなかなか手が挙がらないということで、他のところも含めて、保育人材の確保は相当困難な状況にあることをベースにお伝えしておこうと思います。 夏休み対策として、今年度試行的ではありますが、こども課では3つの取組を展開いたしました。 1つは飯田市にある様々な全市的なこどもの居場所、親子で行く場所の情報提供の取組です。親子で体験するような遊びのイベントや夏休みのこどもの預かりなど、様々な社会資源によって実施しております。こういったものを全てカレンダーのようにしまして、子育てネット内で公開したということです。これは昨年度実施しましたが、募集が厳しいことや7月末前の公開になってしまったこともあり、なかなかご利用いただけなかったため、今回は少し早くお示しすることができまし

	た。こういった形で地域の資源について、カレンダーを見てご利用いただくことになったと思います。 2つ目は公的な施設を使い、法人が取り組む全市的なこどもの居場所づくりを展開しました。これを市が補助し、夏休みに様々な自然体験や、お昼を食べられないなど経済的な問題も含めた困難を抱えるこどもたちの、夏休みの思い出作りとなる取り組みを行いました。感環自然村さんにお世話になり、さくら保育園分園の旧久米保育園を活用して展開をしました。7月24日から8月9日までの3週間を使い、合計150人ほどのご利用がありました。 3つ目は、市内の保育園や幼稚園で、夏休みにこどもを一時的に預かる取組として、小学校低学年児童の受け入れをしていただける園に手を挙げていただき、市ではそれを補助する取組をいたしました。 これらの3つの事業は今年度試行的に取り組んでみたものとなります。 それぞれの手応えはあったように思いますが、夏休みの小学生の学童保育のニーズが80%を超えている状態でありますので、さらに検討が必要だと思ひます。このプランの中でもしっかりご議論を頂戴したいと考えています。
--	--

②「ヤングケアラー実態調査」の結果及び「若者の声の聞き取り」報告について

ア ヤングケアラーの把握に関する取組報告について

(片桐こども課長補佐兼こども相談係長より資料No.3の説明)

意見質問事項

H 委員	ヤングケアラーにつきまして、昨年度に何度か発言させていただいておまして、今回このようなご報告を聞かせていただいたことをありがたく思っております。 研修会を実施されたり、コーディネーターを設置していただいたりしたことで、コーディネーターの方が実際に家庭と繋がって関わりを持ち、支援や良い方向に考えていただける体制が飯田市にはあると思えることが、本当にありがたいし嬉しいことです。ぜひこどもの学習する権利を保障するという立場から、引き続き継続して飯田市に根付いてもらうことを願っております。
事務局	ヤングケアラーの実態調査や取り組み報告については、こども若者の分野の話と捉えております。ヤングケアラーやこども若者、高校生や専門学校生などの皆さんの思い、またその夢に向かってどのようなハードルがあるのか、こういったことをしっかり聞き取り、プランに入れていこうということが今回の諮問事項でもあります。

イ その他、若者（高校生・短期大学生・専門学校生ほか）の声の聞き取りについて

(高山こども課長補佐兼子育て支援係長より資料No.1-2の説明)

意見質問事項

I 委員	児童養護施設長の立場から今のお話を伺いまして、本当にありがたいと思っております。施設のこどもたちは原則高校3年生18歳で施設を退所していかなければ
------	--

	なりません。退所後に話を聞くと、相談相手がいないことや困ったときにすぐ誰かに相談できればいいが、できないこどももいるということが分かります。施設ではアフターケアという形でやっているが、市や社協の方、周りの方の様々な立場で相談に乗っていただけるとありがたいと思いました。ぜひ手を入れていただきたいと思います。
J 委員	少子化対策というところからこども若者たちの成長について考えたときに、保育現場で保護者の方を見ていると、こどもが大勢いる家庭が結構あります。少子化対策としては、結婚前またはこどもを生むところに至るまでをやらなければ意味がないのではないかと思います。晩婚化が進んでいることで、もう1人産みたくても産めないということで悲しくなってしまう保護者もいます。これからそういった時期を迎える若者たちに対して、「子育てって楽しいんだよ」、「こどもと触れ合うことはとっても楽しいんだよ」ということが伝わるように、もう少し政策として何かしていただけるとよいのではないかと感じます。私達もご協力できることをしていきたいと思います。そのようなところから幸せを感じていける飯田市であってほしいと思います。
K 委員	結婚してこどもが生まれると、1人しか働けないから収入が減ってしまい、今の生活より悪くなってしまうから結婚しない方がいいのではないかなというような、悲観的な考え方を若者は持っているような気がします。
L 委員	家族のイメージという、今までモデルみたいなものがあったと思いますが、それがなくなっていたり、まだそういったモデルが引きずられていたりする中で育ってきているというところで、現状の矛盾が出てきている時期で、その影響が一番受けているのはこどもたちです。今だけじゃなく将来の見通しにも影響を与えてしまっているというところが、少子化や晩婚化、そもそも結婚しないということにつながっているのではないかと思います。様々な場面でヤングケアラーの話もでてき始めたが、「こうでないといけない」、「諦めないといけない」といった感覚に陥ってしまうこどもが増えてきているように感じます。昔のような「とりあえず何とかなる」といった感性は、こどもたちにはなくなってしまっています。身近なところで稼げる、成功的にするなど、短期的な物事の見方しかなかなかできないというところを、どのようにしていかなければならないのかが非常に難しいとは思っています。1つは先ほど縦割りという話も出てきましたが、その枠を越えて様々な人がどのように関わっていけるのかといったところの仕組みづくりが、すごく大事だと感じます。もちろんお金や時間も必要ですが、各場面で話を聞いてもらえ、色々な経験もでき、自分が思い込んでいたことが「そうでもなかったな」と感じる経験をする中で、進学や就職などの作戦や手段が本人の中に溜まってくると思います。そして自信もつき「やってみようかな」という思いから、新たな展開になっていくのではないのでしょうか。それができないと、引きこもってしまったりゲームに走ってしまったり、どうしても沈んでしまうところがあるのかなと思うので、子育てや若者の成長、体験の中での関わり方やサポートの仕組みを、知恵を出し合っ

	考えていかなければならないと思いました。
K 委員	施設面についてですが、三日市場にあるプールは、プールであるのに暑すぎて連れていけないという声がありました。
M 委員	他県の児童館やこどもの交流センターに行ったことがあります、大きなビルの 1 階から 3 階が吹き抜けであったり立派な施設がいくつもあったりしますが、飯田市には必要ないと思います。何か既存のものでできるような施設を、皆の知恵で考えていけたらいいと思います。
N 委員	猛暑でも雨天でも行ける親子施設について、兄弟で利用できる施設が欲しいという意見がありました。それと同時に大きなこどもがいて、小さなこどもが踏まれたり飛ばされたりしてしまうという意見もありました。施設の種類のいくつかあり、自分たちで選んで行けるようになるといいと感じました。 もう 1 つはこども家庭センターについてです。それぞれの窓口が様々なところがあり、それぞれの施設があるということはいいいところでもあります、できれば「ここに行ったらこどものことは何でも」というところが 1 つあったら嬉しいと思います。コーディネーターがいて、こども家庭センター内に専門職の方 1~2 人いてくれるとお母さんたちにとっては安心になるかと思います。ニーズ調査の中にもあったように相談できる人がいないときに、遊び場が少しあり遊ぶついでに「少し相談して帰ろう」という形ができたらいいかと思います。

(2) 地域型保育事業（事業所内保育事業）の認可について

(齊藤保育家庭課保育係長より資料 No. 4・No. 4-2 の説明)

意見質問事項

O 委員	非常時の災害訓練についてですが、救急訓練にも取り組んでいただけるといいかと思います。アレルギーに対してのエピペンの使用方法、窒息に対する救命処置に関しては知っていれば助けられる命があるので、火災だけでなく年に 1 回は救急の訓練も盛り込んでもらいたいと思います。
P 委員	伊賀良地区に設置されるとのことですが、保育園の設置は多いと思います。少子化で保育園の機能の集約など、保育園が密集する地域ですが場所的にはどうなのか、地域的な入所のしやすさはどうなのかと思いました。 卒園後というところで、中村保育園への 3 人の入園枠をきちんと確保していただきたいです。
事務局	現状飯田市においては、第二期子育て応援プランに基づいて保育の確保に努めております。ニーズ調査の話もありましたが、未満児保育ニーズの高まりというのは他の自治体と比べて比較的高い位置にあります。伊賀良地区、松尾地区、鼎地区、上郷地区についてはアパートなど様々な要素もあり、多くの子育て世代の方が居住されています。その中で国の新しい制度に基づき、高まる未満児保育ニーズについて今回のような事業所内保育所の制度を活用しつつ、民間園としても安心安全の保育を担保するとともに、その事業所の従業員のこどもを預かること

	で、地域のこどもを地域保育として預かることができます。飯田市ではこれまでにこういった保育園が3園ほどあり、それぞれの地域の思いや制度でやっています。伊賀良地区に保育園が集中しているかと思いますが、未満児保育ニーズの高まりということもあり、地域枠、従業員のこどもの保育というところで、新たな施設として子育て応援プランに沿って飯田市では認可していきたいという思いがあります。連携施設として中村保育園が卒園後の受け皿として、連携の契約をしたところです。希望されるのであれば中村保育園でしっかりと枠を確保できるように努めてまいりますので、ご理解いただければと思います。
--	---

6 その他

7 次回開催予定

日時：令和6年9月26日予定

8 閉会